



8/8 小・中学校道徳科研修講座の概要を紹介します！

『考え、議論する道徳の授業づくり ～問いにこだわり知を深める～』
立命館大学大学院 教授 荒木 寿友先生



学習指導要領では、答えが1つでない道徳的な課題について子どもたちが自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」が求められています。研修講座では、「探究的道徳」について教えていただきました。研修講座の一部を紹介します。

探究的道徳とは

○自分の当たり前や常識（自分の価値観）を改めて捉え直す（批判的思考）

「自分は一体どのような価値観に基づいて物事を捉えているのか？」「私たちのものの見方や考え方は共有できるのだろうか？」と改めて捉え直す

当日行った演習を紹介します

『本当の優しさとは何か』

Q. 次の行動は優しいですか？優しくないですか？

水曜日のロッカー点検ではいつも怒られているAさん。Bさんはいつも先生にお願いされて、水曜日の放課後にAさんのロッカーの整理を手伝っています。

水曜日の昼休み、Aさんのロッカーが開いていました。中を見ると、相変わらずぐちゃぐちゃです。Bさんは「どうせ今日も手伝うなら、先に片づけておいてあげよう」と思い、先に片づけてあげました。

○授業の流れ

①個人思考

- ・優しいか優しくないかを判断し、自分の「優しい」の基準を考える。
- ・私の考える「優しい人」とはどんな人かを考える。

②グループでの話し合い

- ・本当の優しさとは何か話し合う。

③話し合いを通じて、「本当の優しさ」について自分の考えを書く。

このような探究的道徳を一度実践してみたいかですか？



○教材・課題のポイント

- ・できるだけシンプルなもの
- ・多様な解釈をすることができるもの
- ・価値（観）の対立が含まれるもの

考え議論する道徳は、「誰かに話してみたい！」と思える問いが大切です。

○大切にしてほしい話し合いのルール

- ・人の意見を最後まで聞く。
- ・意見を否定しない・人を非難しない。（理解するように努力してみましょう）
- ・必ず質問する。（なんで？どうして？例えば？具体的に？）

今回の演習は、【『問い』にこだわり知を深める授業づくり（荒木寿友 編著）】に詳しく掲載されています。他にもやってみてみたいと思える実践例が指導案とワークシートのセットで掲載されていますので、ぜひご一読ください。（嶺南教育事務所でも貸し出し可能です。）



受講者の声

探究的道徳の考え方が新鮮で実践してみたいと思った。感想交流から内容項目を出したり、疑問から授業を作ったりするなどをしてみたい。

実際に演習をする場面では、判断の難しい内容であるので対話が盛り上がり、どんどんと優しさについての考えが深まっていったように感じた。

議論する道徳のために対話を深めること、対話のためにしっかり話を聴く、批判しない、共通点や相違点を見つけることなど、大切にしていきたいです。

探究的道徳の演習がとても参考になりました。自分の価値観を批判的に捉えなおすために、他者と対話して考えを深めていくことの良さがよくわかりました。

《問い合わせ》
研修課 0770-56-1302